

陸軍成業三校演習(資料)

(在在。鳥部隊)

謝表官

陸軍中將 渡邊 雅夫

陸軍少佐 中谷 光三

21. 12

21. 1

獨逸混成第五十二旅團戦史資料

詞製官 陸軍中將 渡邊 祐夫
陸軍少佐 中 大 九 三

1052

第一章 編成裝備關係

第一節 部隊及關係部隊編成人員兵器彈藥

第一 獨立混成第五十二旅團ハ昭和十九年六月十日ポナカ島ニ於テ編成セラルル 其ノ編成人員附表第一ノ如シ

第二 獨立混成第五十二旅團ハ南洋第三支隊及獨立混成第五聯隊部隊ヨリ成ル 其ノ編成人員左ノ如シ

ハ南洋第三支隊

支隊本部

歩兵大隊 三

戰車隊 一

工兵隊 一

ハ獨立混成第五聯隊部隊

歩兵大隊 一

砲兵大隊 (輝)

工兵中隊

衛生隊

總計 將校 二二名 下士官 兵 三九二名 計 六一五七名

第三 獨立混成旅團編成前後三回リ南洋第三支隊長 (獨立混成第五十二

旅團長) ハ歩兵第百聯隊部隊ヲ併セ指揮セリ

其ノ編成人員左表ノ如シ

聯隊本部 一部 第二大隊 迫撃砲第一第三中隊 機關砲中

隊 戰車中隊 衛生隊 一部

將校 二〇名 下士官 兵 約 二一三三名 計 約 二一七三名

第四 獨立混成旅團長 (南洋第三支隊長) ハ陸上防備ニ關シ在ホ

ナカ馬海軍部隊ヲ併セ指揮セリ 其ノ編成人員左ノ如シ

第四十二警備隊

第四施設部第六旅遺隊 約二二〇〇名
設營部隊

第五陸海軍部隊 主要兵器彈藥左ノ如シ

兵器

獨混五十二旅團

附表第二ノ如シ

歩兵第一七部隊

海軍部隊

海軍一五榴砲

八門

海軍八榴砲

八門

海軍高角砲一二五

四門

機

銃

約二二門

等

彈藥

獨混五十二旅

附表第三ノ如シ

歩兵第一七部隊

海軍部隊

第二職負表

獨混五十二旅

附表第四ノ如シ

歩兵第一七部隊

附表第五ノ如シ

第三節 人員兵器等ノ増減關係

其一人員

一、南三支編成地出發時 將校以下一九〇一名

二、ホノ島到着時 (歩一七第三大隊ヲ併セ指揮ス) 增加人員

將校以下一七五〇名

三、昭和十九年二月(歩一七部隊及獨混五十二旅部隊到着) 增加人員

將校以下二一五〇名

戰鬪間消耗人員 (出發時迄)

1750
2150
4800
5500

將校以下一〇四名(二五名)

終戦時人員

將校以下五七二六名

ホナ島出發時人員

將校以下五七一五名

其二兵器

一増加

二月十五日獨之混成隊及隊隊進駐二伴七八九式重擲彈筒

二七九九式輕機關銃二七九二式重機關銃二九四式

三七機砲二九二式步兵砲二三八式野砲六

二月十六日步兵第百七聯隊隷下部隊進駐二伴七

九五式輕戰車九九七式車載重機關銃一〇九八式三七

機戰車砲九九八式高射機關砲六九七式曲射步兵砲

二四自動貨車二束圓車二

七月九日潜水艦三ヨリ補給九四式五號無線機二九二式重

機關銃二

二減耗

八月爆撃二依り爆矢九九式輕機關銃二九七式曲射步

兵砲一

第四師在留邦人及島民

其一ホナ島在留邦人約五七〇名

内沖繩人約二三〇名朝鮮人約一五〇名

在留邦人中在御軍人約一五〇名

内部隊進駐後入營訓練セシメタルモノ約九〇〇名

臨時看護婦等負トシテ訓練セルモノ約一五〇名

義勇隊トシテ訓練セルモノ約六〇〇名

其二 島民 約三〇〇〇名

第二章 部隊 概要

第一節 南洋第三支隊長在島部隊間

一 編成

昭和十八年十月三十日 鐵嶺ニ於テ編成完結

二 編成地出發

昭和十八年十二月十三日ヨリ十四日ニ亘リ 編成地出發朝鮮

釜山ニ集結乘船十二月二十二日 宇品到着

三 内地出發

昭和十八年十二月二十五日 佐伯港出發

昭和十九年一月三日 トラック島 着

四 任地到着

昭和十九年一月九日 泊ナ 港到着

一月一日 泊ナ 島上陸

イ 泊ナ 島 警備

自昭和十九年 一月十日

ロ 第一泊ナ 島 對空戰鬥

自 二月十五日

ハ 第二泊ナ 島 對空戰鬥

自 四月二日

ニ 泊ナ 島 守備

自 五月三日

自昭和十九年 一月十日

陸軍

10. 南支隊復帰

軍令陸甲五十八号ニ基キ独立混成旅團臨時編成ニ伴ヒ三月十日現地ニ於テ復帰充テ又

第一師團五混成旅團長在島部隊指揮間

1. 編成

軍令陸甲五十八号ニ基キ南支隊第一旅團及在島

獨立混成旅團ヲ以テ昭和十九年三月十日獨立混成旅

團五混成旅團ヲ編成シ同日編成充テ又爾後二月下旬

編成関係書類到着ニ伴ヒ之ガ補正ヲ行ヒ三月十日

之ヲ完了セシ

2. 泊テ此守備

自昭和十九年五月二日
至昭和二十年八月二日

3. 復員待命間勤務

自昭和二十年八月二日
至昭和二十年八月二日

4. 終戦

昭和二十年八月十五日 終戦ニ関スル御放送ヲ拜ス

昭和二十年八月二二日 零時時停戦

昭和二十年八月二五日 零時時作戦任務ヲ解除スル

5. 調印

昭和二十年九月十一日 獨立混成旅團五混成旅團長ハ

六混成旅團米驅逐艦「ハイムン」号上ニ於テ協定書ヲ

調印スル旨實施ス

6. 米軍改回

昭和二十年九月十九日 米側ハ六混成旅團ヲ布告シ

島内ニ軍改ヲ施行ス爾後我が方ハ米側要求ニ基

キ其ノ軍改ニ所要ノ協力ヲ示ス

7. 帰還輸送

在島陸軍部隊ハ一部ヲ以テ昭和二十年十月下旬ヨリ

東京國本ノート橋

主カヲ以テ十二月上中下旬ニ亘リ、ボタ島出發工月下旬ヨリ昭和二十一年一月下旬迄ノ間、本上備着瀬賀港ニ上陸ス

復員

部隊ハ本上上陸ニ従ヒ逆次上陸地ニ於テ復員ヲ實施シ昭和二十一年一月八日將殊ノ者ヲ除ク全部ノ復員ヲ完結ス

第三章 指揮系統關係其ノ變遷概要

第一節 獨逸混成隊ヲ主トシテ旅團編成以テ

ノ 赤茅一七第ニ大隊 海軍第 四 警備隊長指揮

下ニ在リテボタ島ノ準備ニ任シ南洋第ニ支隊ノ

到着ニ伴ヒ其ノ指揮ニ入ル

南洋第ニ支隊編成完結朝鮮國境通過後東部軍司令官

令官、赫下ニ釜山港ニ出發時ヲ以テ第四艦隊司令官長官ノ

指揮トシテボタ島到着ノ時ヲ以テ第四根據地隊司令官ノ

指揮ニ入リ、昭和二十一年一月十日、ボタ島上陸ノ時ヲ以テ第六百七

第ニ大隊ヲ併シテ指揮シ陸上防備ノ員シ第 四 警備隊又ハ

四施設部「ボタ」ハ派遣隊ヲ指揮ス

三 赤茅第百七聯隊増設部隊

昭和二十一年二月一日赤茅第百七聯隊ノ一部第 三 連襲砲

中隊數車中隊衛生隊ハ「ボタ」島ニ上陸シ南洋第ニ支隊長

指揮ニ入ル

六 獨逸第 五 聯隊増設部隊

二月九日及十四日獨逸第 五 聯隊第 三 大隊野砲兵大隊(二中隊又

ハ七中隊衛生隊「ボタ」島ニ到着シ南洋第ニ支隊長指揮ニ入

第二節 獨逸混成隊第 五 旅團編成以後

ノ 第三章 軍勢トノ關係

第三章 編成 陸軍第四艦隊司令長官及第四根據地隊司令官指揮下ニ於テ 陸軍第四師團長ノ指揮下ニ入ル 陸軍防備ニ關シテハ 陸軍海軍部隊ヲ指揮スルニテ 故ノ如シ

第四章 軍勢作戰準備關係

第一節 作戰計畫ノ概要

南洋第三支隊長ハ昭和十九年一月三日トシテ 島於テハ 島上陸ニ關シテ 第四艦隊司令長官及第四根據地隊司令官ノ命令ヲ受領シ 船内ニ於テ 其基礎構想ヲ 策定シ 島上陸直後若クハ 現地偵察ノ後 亦ハ 島上陸準備計畫第一号ヲ定メ 爾後 部隊ノ 實質準備地構築ノ 進捗等ニ應ジ 昭和十九年三月ハ 四艦隊下年ニハ 四回ニ亘リ 之ヲ改訂シ 以テ 其ノ改善進歩ヲ 計レリ

其一

準備計畫第一号 (昭和十九年一月)

本計畫ニ於テハ 第四艦隊司令長官及第四根據地隊司令官ノ命令ニ基キ 昭和十九年四月末迄 野戰陣地ヲ以テ 本島ノ 作戰準備ヲ 完了スルヲ 目的トシ 專ラ 陣地及 主要交通施設 構築ヲ 主眼トセリ

ノ 防禦方針

本島ノ 準備ハ 敵攻勢 部隊ニ 對シテ 亦ハ 島要域ヲ 確保スルニ 爲シ 主カク シテ コロヤノ 一部ヲ 以テ マタ ラヘハ 配置シ 野戰築城ヲ 以テ スル 作戰準備ヲ 四月末迄 完成ス

ニ 防禦配備

当初 本島 周辺ヲ 四方面 地区ト 中央地区ニ 区分シ 各方面 地区ニ 連劑 大隊ヲ 中央地区 隊ニ 直屬 部隊ヲ 配置シ

昭和十九年有增加部隊到着云々其主力ヲ中央地区ニ配
 當リ各方面地区ニ際ハ海岸陣地ヲ於テ敵ノ進滅ヲ期スル
 其其陸場合ヲ考慮シテ據守陣地頭張陣地ヲ
 構築シテトシテ中央地区際ヲ以テ中央陣地及復廊陣地
 ノ構築ニ任シテトシテ海峽線ノ状況ト兵力ト南線及
 島内重要部(コシヤ港灣及ハルヤ飛行場)位置關係上南
 西面ニ対スル兵力ヲ極力減少シ各方面ハ至トシテ地形ヲ利
 用スル遂以テ抵抗ハ中央陣地及復廊陣地ノ利用ニ依リ
 敵ヲ拒止セントセリ

配備ノ概要

北地区隊

歩兵第百五師隊才大隊基幹

東地区隊

南洋第ニ支隊才大隊

東南地区隊

日 才大隊

西地区隊

南洋第ニ支隊才大隊一隊基幹

日

兵力 獨混歩隊砲兵隊(一隊)

中央地区隊

獨混第ニ大隊(一隊)

直轄隊

戰車二隊工兵約二隊

機關砲一隊

右配備ハ陣地構築能態勢力以テ敵ノ攻畧ニ備ヘテリ
 其ノニ準備計畫第ニ号(昭和十九年五月)

本計畫ニ於テハ南線ノタメバルキール飛行場ノ重要性

及西地区方面ノ戰術的價値ハミタラシムル方面ニ大ニ

モリテ鑑一上述第ニ四艦隊司令官官及第ニ四根據

地指揮官命令ニ拘ラズ防禦ノ重要ヲ變更セリ

防禦方針

出島島ノ南端ハ敵攻撃部隊ニ對シテ出島ノ要域ヲ

東京 陸本ノ一ノ四

確係在在之ヲ為好備、重兵ヲ「コロニー」及「ルキール」飛行場附近地区トシテカ「ラ」カ「ミ」ル地区ニ配置ス
ニ配備ノ概要

西方面ヲ強化スル地變化ナシ

其ノ一、三、年備計畫第三号（昭和十九年八月）

本計畫ニ於テ南地橋梁、進捗ニ鑑ミ、中央地区際ニ

廢シテ之ヲ「ト」レ「機動線」備障トシテ使用スル「ト」セリ

尚本島西方面昇衛、強化ニ付キ著意セリ

ノ防禦方針

變化スル海岸障地ヲ半永久的ニ構築スル

ニ配備ノ概要

其ノ一、年備計畫第三号（昭和十九年八月）

本計畫ニ於テ「年」上「年」下ノ防衛ニ對シテ、時期ニ於テ新築スル

軍長ノ合圖下ニ態勢轉移要領ヲ取入ル修ムセリ

其ノ四、昇衛計畫第四号（昭和二十年一月）

本計畫ニ於テ、配備、細部ニ修ムル在リ、大島ノ軍長

ノ防衛態勢ヲ強化整理ス

第一節 障地ノ状況

其ノ一、起工時期所要人員使用費材料

○ 起工昭和十九年一月十日

所要人員 延四〇万人日

資材

木材、岩石、シート、少量ノセメント

鉄筋（障地物及掩蓋強化ノ増強）

軌條（運土者ニ障地物掩蓋強化ノ増強）

其ノ二、完成時期及強度

昭和十九年十一月 概成以降強度ノ増強層ヲ障地

更新強度、野戰築城一部平永久築城並永久
的ノモトテ、V形地雷埋彈射ル強度

其ノ三、敵攻撃ニ依ル破壊補充ノ状況

毎日、空襲時ノ量ノ破壊アルモ、其ノ都度補修ヲ

實施スル和十九年五月二日機動部隊永改時海岸

陣地及第一線陣地據美ノ約ニ、程度ノ破壊ヲ受

ケル元、六月ニテ補修ヲ完了ス

其ノ四、港湾施設及飛行場施設

環礁ノ水道ニ対シテハ、防戦及機雷ヲ設置シ閉鎖

シ置ス

飛行場

第一、航空基地ニ對シテハ、先般ノ先般ニシテ

第一航空基地ニ對シテ、昭和九年二月四月迄ニ機雷

何ニテ、四月ニ敵空襲ニ對シテハ、確保ノ陣地ニ編成

構築ス

第三、節、軍需品某積格州ノ状況

軍需品、某積格州ノ敵上陸ニ對シテ、退却ニ敵軍ニ阻

ルニテ、在リ地雷埋彈ニ依ル積格州ノ減少熱地ニ受候ニ象

ニ依ル、要質防止ニ重莫ク置キ、戦力ハ、次第ニ著意

之ヲ為據、美陣地ヲ須張陣地附近ニ亘リ分散

配置ス、或ハ地下ニ格納シ、或ハ積格州ノ勵行

ニ等、保存ノ高合ヲ期セリ

其二 自治事項

新設、當初出資之懸念、有分糧食ヲ補給ノ旨ヲ推挙行セシ
任地到着後殆ど補給ナク僅ニ五百分ノ補給ヲ受ケタルノ
狀況ニ至ル迄、島内生産ノ状況亦活潑ナク、俸有糧食モ逐次
減少化シ、遂ニ以テ茲ニ島内自治ノ徹底化ヲ期シ、島内軍
官民ノ總力ヲ擧ゲ、之ガ實現ニ邁進セリ

昭和九年、自領ヨリ從來業ヲ利用トシ、之ノ利用セムルアリシ
ギヤツサ、トシテ主食トシテ利用ヲ開始スルト共、島内常用食
食トシテ甘藷ヲ選定シ、之ガ徹底的栽培ヲ實施シ、一方南洋羣
ニ於テ實施シテ、水稲栽培ニ繼續スルコトセリ。此ノ間、軍官
民有識者ヲ以テ生産委員會ヲ組織シ、之ガ達成ヲ
期セリ

主食甘藷栽培當初、八月日量〇、五斤ヲ逐次上昇シ、六月
他リ、昭和九年九月日量一、二斤、昭和十年一月日量二、八斤、昭和十年
五月日量六、二〇斤、終戦頃ニ於テ二、五斤ニ至リ
右外糧食ノ現地自治ニ關シ、施策セラルルノ如シ
ノ主食

米南洋總ノ五体トシテ經營ス、年ニ毛作ニシテ一期ノ生産
量平均五〇石トス、トシテ非常食ニ充當セリ
キヤ、昭和十年三月、軍官民ノ非常食トシテ全島二百リ約
自分ノ栽培セリ。成長ニ伴ヒ、適宜量食トシテ利用ス
ノ副食

野菜、新設及島内事業會社ニ於テ自治生産ヲ實施ス
品種ニヤク、胡瓜、茄子、南瓜、冬瓜、果ニテ、自産約
一五〇屯ナリ
魚類、鯉及雜魚ニテ、時期ニ依リ盛衰アリ、七月一日量平均三
百ナリ

東京四本ノ一ト納

肉類 島産生豚ノ自活飼育ヲ奨励セシテ日常使用ハ
少ク増殖ノ急制限セリ 終戦時ノ保畜数約一〇〇
頭ナリ

調味品 食塩 毎月平均三〇〇〇貫ヲ生産ス

醬油 コブラ粉ヲ以テ少量ヲ製造ス

椰子油 毎月平均三〇ドラムヲ生産シ食用糖ニ燈
火用トシテ使用ス

砂糖 甘蔗ヨリ毎月平均一ドラムヲ生産ス

嗜好品 糖耐 糖類ヨリ毎月平均三ドラムヲ生産ス

煙草 少量ハ先生産シ嗜好用ニ供セリ

保存食

島内生産品及同ノ原料ヨリ乾燥セシメテ貯蔵シ得ル
ル如ク之非常用保存食トナス如ク計画シ昭和七年
四月頃ヨリ實施セシモ本格的實施ニ移ラザル中ニ終戦トナリ
別着年ノ懸念ヲ製造保存セリ

被服物品等ノ自活ニ因テ島内ノ實況ニ應ジテ代用品ニ妥
瘁品ノ利用等ニ努メ更ニ自營研究所ヨリ之ヲ研究進
歩ニ努メテノ其ノ刷新ハ其ノ自營事項ニ求ムルカ如シ
其二 自營事項

昭和七年四月以來海上ノ交通杜絶スルニ伴後ニ作
戦資材ノ島内自營ヲ必要トスニ到リ 昭和七年四月
一日自營研究委員會並ニ自營研究所ヲ軍官ヲ以テ設
立ス

自營研究委員會ニ委員長ニ佐ノ亮留シ機械化
學鐵維食糧ニ関シ専門知識ヲ有スル約十五名並ニ
將校南洋廳支應及ニ熱帯研究員ノ官吏ヲ以
テ委員トシテ戦上必要トスル資材物資ノ研究ヲ急シテ

東京國史ノート

自營研究部の委員の研究事項ヲ實驗ニ就キ産出シ行ヘリ

將校

下士

兵

部長

庶務課

一

一

二

機械課

二

一

二

化學課

二

一

三

纖維課

一

一

四

糧食課

一

一

一

③場部南洋廳熱帯産業研究部ホカ支隊

④研究課自機機課縫針、ミシン針、鐘、紙鐘

化學課、アルカリノ製造

油脂類研究、椰子油、豆油、花生油ノ材料カリンニ付

自給車洞滑油

食用食物ノ栽培及之レ方利用

消毒薬、アルコールノ製造（利用ニ得タリ）

膠、鉛筆（權成ス）

纖維課、紙ノ製造（手摺ミ紙ヲ造リ得タリ）

鞣皮ノ製造

織布ノ製造

糧食課、保存食糧ノ製造

蔬菜栽培ノ研究

七月天山や島内ノ凡ソ研究業ノ没材ヲ蒐集シ本格的ニ研究ニ着手シ七月八日ニ到リ終戦トナリ研究概圖ヲ完成ス

第六隊 島外補給ノ状況

島外ノ補給ハ三年間ホホ島ノ守備ヲ通シ糧食金島
人員ニ對スルニ約五ノ分ト衛生材料通信機材ノ貯蓄
水艦或ハ航空機具船ニ依リ補給ヲ受ケタルノミナリ
第七隊ハ訓練ノ状況

訓練ニ重キヲ精神ノ鍛練特ニ意志及頑強精神ノ鍛練
南ホホ守備戰斗法徹底基礎的教育及体力増進
ニ置キ司令形及直原各知隊長ノ教育ニ意ヲ注ケリ教育
ニ於テハ二回ニ亘リ改訂ヲ實施セリ
其ノ司令形教育
作戦ノ重キニ對シテ司令形ノ演習四回
地形及通信ノ重キニ對シテ司令形ノ演習三回

道原部隊及新隊長ノ圖上兵糧研究三回
其ノ道原部隊及新隊長ノ司令形演習二回
昭和十九年度

守備計畫書ニ基キ新隊長ノ圖上兵糧研究三回
旅團長檢閲(昭和十九年十月末ヨリ十一月廿二日迄)
西地區隊 敵主力西方面ヨリ上陸ノ海岸戰斗
北地區隊 敵主力北方面ヨリ上陸ノ海岸戰斗
東地區隊 敵主力北方面ヨリ北陸ノ海岸戰斗
南地區隊 敵主力北方面ヨリ北陸ノ海岸戰斗
總テ守備隊西地區方面ノ機動及反擊
戰術
西地區隊ニ協同スル海岸戰斗
砲兵隊 西方面ヨリ北方面ノ陸地及機動戰斗
工兵隊 北方面敵後方面對シテ奇襲行動

東京 國本ノ一ト納

通信隊 旅團司令部ノ移動ニ伴フ通信施設及

通信實施地

昭和四年年度

作戦及合圍態勢ノ轉移ノ爲メノ糧食運送

ノ因

旅團司令部ノ指導ニ付テ陸隊教練

西地帯隊

西方面ノ敵隊東退後西北正面ノ敵ニ對スル及

東隊ノ

北地帯隊

地帯内海軍部隊ニ對スル陸隊ニ對スル地帯隊

隊ノ

東南地帯隊

地帯内南部隊ノ司令部ニ對スル陸隊ノ

指揮

總隊備隊 一面之面 機動ヲ行フ黎明末期及擊

其ノ三 戰鬥法ノ普及教育(研究共)

昭和十九年度

防空施設ニ關スル研究及普及

一四

陣地編成ニ關スル研究及普及

一四

小部隊夜間突入斬込ニ關スル研究教育

一四

右ニ基キ、本大ニ對シテ、戰鬥教育令ヲ作成各部隊ニ配賦セリ

昭和二十年度

對戰車戰鬥法研究

一四

爆破教育ノ普及

一四

通信教育ノ普及

一四

花斯教育ノ普及

一四

其ノ四 禮法書類ニ依ル教育

本大ニ對シテ、精神鍛練ニ憑據ヲ與ヘ、日々ノ戰鬥及經驗之ヲ教訓サル旨ニ依リ各種參考事項ヲ輯製シテ各中隊ニ到ル迄之ヲ配賦セリ。昭和十九年度約百張迄、昭和二十年度約六十張迄。

其ノ五 在野軍人及民衆教育

兵備兵力ヲ補ヒ彈藥補充等ノ勤務ニ充テ、勤務ニ充テ、約四百名ノ在野軍人ヲ三月間倉庫ニ補充シ、補充兵ニ對シテ教育ヲ實施シ、合同下ニ於テ之ヲ各集使用スル如ク企劃セリ。

別ニ民衆ニ對シテ、合同ニ添スル避難移住ノ訓練ヲ二回ニ亘リ實施セリ。

第五章 戰鬥狀況

第一節 參加セル主要ナル作戰

昭和十九年二月月中旬ヨリ五月ニ到ル敵機ノ戰線連合ヲ來襲ニ對スル對空戰

昭和十九年五月下旬 本坂作戰

昭和十九年十一月 提拔作戰及本土提拔作戰

共ニ本大ニ對シテ

第二節 敵機来襲状況

自昭和十九年七月下旬、間ハ大型中型爆撃機ニ依ル爆撃或ハ小型機
ニ依ル低空銃撃最モ熾烈ニシテ其機數多キハ白機少ナキハ
十數機ナリ

昭和十九年七月ヨリ終戦迄ニ於ケル空襲状況ハ極メテ低調ニシテ
哨戒或ハ月數次ニ巨ル銃爆撃ヲ受テ

第三節 敵機損害

撃墜約二〇機

撃破約二十數機

第四節 敵機投着ニ對スル處置

伊藤間本島西方面ハルキ山附近及ワケケ山附近ニ中型機及小型機各一墜落シ
前六名後者一名ノ即死者アリタルモ之ヲ丁重ニ戦死地ニ並名戦死ノ墓標ヲ設
立セリ

第五節 機動部隊未襲ノ状況

昭和十九年四月三十日トラスクニ敵機動部隊未襲セリトノ情報ニ依リ警戒中ノ所五月
二日ヨリ頃ヨリ本島海西面海面ニ艦艇感度ヲ測定續テ一〇〇噸戦爆連合艇百數
十機ノ來襲ヲ受ク一ニ〇ノリ空母ニヲ若幹トスル戦艦以下約四十數隻ノ機動部
隊近接シ来リ二回ニ亘リ艦砲射撃ヲ實施シ同ノ刻東北方ニ退去セリ
本戦ニ於ケル敵ノ使用砲爆彈ハ千數百發ト判断セラル、モ我艦被害ハ極
ク輕微ニテ多クノ戦利ヲ得タリ

第六章 給養衛生

其一 給養

部隊ノ仕地出發ニ至リ三月ノ糧食ヲ携行セルモボクハ島上陸以後無補
給ノ状態ニテ此ノ間補給アルニハ精米約五日分味噌醬油若干クニ保有
糧食ノ徹底的節約温存ヲ圖ルト共ニ現地糧食資源ノ増産利用ニ努メルト共ニ
島内軍官民ヨリ選定セル委員ヲ以テ生産管理委員會ヲ組織シ島内生産
ノ拡充及配給ノ円滑化ヲ圖リ特ニ主食トシテ甘藷、キヌツサバノ増産ニ努メ
昭和十九年八月頃ハコウラ及パン類ヲ常ノ食トセリ日々ノ熱意ハ一七〇〇カ
リノ状態トナリシモ其後ノ努力ノ効ヲ奏シ終戦時ニ於テ八日ノ熱量
ニ四〇〇カワリトヲ維持シタリ
作戦仕勢遂行中ニアラテハ作戦用正規糧食ニ週間ノ分ヲ確保セリ
終戦時ニ於ケル本島ノ糧食供出状況左如シ(月額)島内人員ハ軍約九〇〇
名邦人官民約五七〇〇名ナリ

陸軍

1071

(三式 碗日額)

(甘藷 三〇〇)

四〇〇瓦

蔬菜 一三〇

三〇瓦

英 二〇〇 (大部方鉄)

一〇〇一三

糖 密 一〇ドラム

三五瓦

食 油 四〇〇

四〇三三

高 穀 穀 生 脈 鈞 一〇〇 致 外 二 耕 半 水 牛 名 下 了 了

陸軍

其ノ二 衛生

1. 衛生隊團ノ状況

昭和十七年一月十日ホカ島上陸後コロニヤ町ニ支隊本部醫務室ヲ開設同年二月二十四日支隊母軍カノ大之ホニマル少進ニ伴ヒ当地核医務室ヲ開設シテホニマルニ移動開設セリ

同年二月廿七號第一〇七解除ノ一部ヲホカ島上陸ニ伴ヒ同衛生隊ヲ二月十四日編成第五聯隊衛生隊ノ一部本島上陸ニ伴ヒ同衛生隊ヲ三月各々上陸地附近ノ患者ノ治療ニ任セマシキ

當時爆薬運込次第トナリ傷者相次イテ發生セシ傷ニ對シ各隊ノ駐屯地ヲ變更ス
二月二十日支隊本部衛生部員ヲ以テ「ナンボ」ニ

ホカ島患者治療所ヲ開設シ治療ノ元地ノ体系ヲ確立ス
荷兵第一〇七聯隊衛生隊ノ主力ヲ

東南地区ニ一部ヲ西地区ニ配属シ夫々治療業務ヲ援助セシムルト其ノ増進成第五聯隊衛生隊ヲ「ナンボ」ル地区ニ少進セシメ同地ニ編成所ヲ開設セシメタリ

三月六日ナンボル衛生隊ノ一部ヲ以テ「ホカ島」患者治療所ナンボル分所ノ業務ヲ兼掌セシメ三月三十一日支隊本部カノ「テア」ニ林業少進ニ伴ヒ「ナンボ」ル「ナンボ」ル同地ニ開設ス

六月十日獨立混成第五旅團ノ編成ニ伴ヒ「ナンボ」ル衛生隊ヲ解散ス
十日一日任東南地区第一〇七聯隊衛生隊ノ一部ヲ

東京 國本ノ一ト録

No. 2

陸、軍

以下和十ハ島憲務療養所コトヲラニシテ各所ノ事務ヲ兼テ事セシメタリ

十月一五日當時結核性疾患等要長期療養患者

者數増加ニ来レリ以テマタラニシテ十月二十日東

之地區ナント岬ニ一ヶ所ヲ夫々分置テ開設トシテ肺核

ヲ含メ結核性疾患ノ收容ヲ開始セリ

昭和二十年五月三十一日トシテ今更テ開設ニテナラ

令置テ豫ルハ

同年七月却旬數老セシ流行性腦脊髄膜炎ハ數

多発シ北カリヲ以テ四十七ノ一ト分所ト西地區隔年

俾地ニ隔離所ヲ開設シ該病ノ收養ヲ開始セリ

尚今山下ノ衛生機關ノ設置ニ患者ノ收養

ニ就テ老々々研究シ計畫ニテ任務ニ邁進ス

八月十日終戦ノ詔ヲ拜シタルモ引續キ本組ノ任務

ヲ遂行セリ

六保音ノ状況

銃爆轟下防備作業訓練並ニ現地日比ニ邁進

スル一方戰傷俘虜ニ遣返ナキヲ期シテ先般秋九九年

四月以來終戦迄ハ區次低下ノ一途ヲ辿リ平均年

齢ハ漸次進滅スルヲ望ミ患者ノ發生場所以ノ同年五

月ニ於ケル休養ハ島嶼諸島五ヶ所ハ上陸者皆皆七ヶ

所示シ患患者ノ發生數ハ一九ヲ數者トシ一時百五

スベキ状態ヲ現出シ同年七月二十日ハ和十ハ島

守備隊健全ヲ對策實施要領ヲ制定シ結核撲滅

ヲ重要トシ指導ヲ或ハ路兵ニ對シテハ所謂練成

隊ヲ編成シ特別訓練ニ使スル等ヲ依リ區次向上

東京圖書ノート納

NO3

陸軍

終戦時平均年重五八八斤以上を示す
本期間に発生した結核患者は五名以上は内五名
は他疾患者に併発するものあり
衛生成績判断に附表第六の如し
3. 防疫ノ状況

上陸頭初回名ノ赤疾患者ト一名ノA型パチケブス
(河上夕映丸ニテ輸送途中船内職員感染患者
島上陸後発生した赤疾患者ノ計二名ヲ夕映丸ヨリ
收容スルに突生ヲ見外一般ニ良好ニ繼續セラレタリ
二五七名ヲ算シ依然小流行ノ形式ヲトリ終戦
九七一ノ亦せん之ニヨリ減耗八一名モナシ

ワイル氏病ハ上陸後全員四月五日全員神編捕
獲ヲ美施セルモ九月ヨリ逐次発生シ本発生数
八九四ニ三三テ之ニヨリ減耗八〇名ヲ算シタリ
流行性胸脊髄膜炎昭和二十年五月八日二名疾
生ニ爾後六月三〇七日初旬ニ至リ逐次散発スルニ至リ
先ヲ以テ七月六日本島全般ニ亘ル本格的防疫ヲ実施ス
十月末ニ至ル患者總発生数八名僅一〇六(金海軍)
類似三計一〇九ニ達ス内死亡五名治愈五六ナリ
十月末ニ至リ逐次発生減少セリ以テ十一月四日一應
防疫ヲ解除セリ

4. 防疫ノ状況
軍醫部中隊隊部附近部隊附軍醫ニ事務
ヲ兼テ奉セシムル外軍醫配屬ヲ分屯隊ニ對シテハ

東京 國本ノ一ノ一

104

陸 軍

衛生下士官ノ死傷ニ定期此圖診斷療ヲ実施スル等努メテ早期ニ診察セシメ失テタル者莫クシテ
遺科診療ノ概ヨリ不患者療養所ニ於テ実施セリ
外各地區ニ巡回診療ヲ多ク施ス

野地方ノ療養ハ中島地方衛生機關ノ全額ヲ以テ
鑑ニ隊診療ニ支障ナキ範囲ニ於テ積極的ニ之
ヲ実施セリ

患患者ノ状況
山患者ノ発生状況

上陸以來患患者發生總數一〇、七六二ニシテ人員毎
年發生率一六五・七ナリ

主ナル疾患トシテ結核性疾患一七〇脚氣二〇
急性腸炎一、七〇、破傷風一七、六、外破病一、九

外傷不慮一、七、一五流行性腦脊髄膜炎一〇、〇、
イ儿氏病九四、テ、熱九七、一、性病六

是等疾患ニ依ル減耗數八一三ニシテ其ノ五ナリ
ハ對死五一、新傷五、戦傷五、五三、一、五ナリハ

イ儿氏病、肺結核、其ノ他ノ結核、帶虫、失
調症、五、流行性腦髄膜炎、其ノ他、内、七

齒科患者總數二、七四〇ニシテ主ナルモノ、齒、一、九

一、其ノ他、齒、尖、齒、髓、膿、外、傷、二、傷、一、齒、牙

自昭和十九年三月間ニ於ケル月別新患發生ハ附表系
七ノ如シ

東京圖書印刷

105

陸軍

(2) 患者ノ收療後送ノ状況

木下八島港者療養所開設以來、入院收療患者總數七三九(内療養所四九七、十一ル分析一八五、二ツラニシム分析五七)ニシテ、及七セムノ四二ナリ、内地ニ後送セムノ終戦前ニ於テ九(海軍ニヨリ合シ)終戦後第一回一〇二(十月十四日)第二回八三(十一月十二日)計一九四(海軍ニヨリ合シ)

6. 教育ノ状況
1. 衛生部及陸軍衛生部ニ對シテハ教育ノ準備計畫ニ據リ必要ナル各個別訓練地爆轟下ノ患者收療方法並ニ患者療養所勤務等ヲ下ニテ其地并合教育ヲ習ハ

(2) 兵科ニ對シテハ教育ハ救急法ノ普及徹底對シテ警備ノ度置ニ生莫ヲ遣フ

(3) 在御軍人ノ對シテハ全圖下召集サレハキ部隊ノ特性ニ依リ救急法ノ教育ハ一般ニ之ヲ教育スルニ衛生部及陸軍衛生部ニ對シテハ編入サルハキ者ニ對シテ救急法衛生法兩方ナル患者ノ處置者ヲ法患者ノ建報法ニ就キ教育セリ

(4) 看護婦隊ニ對シテハ既屬部隊ニ在リテハ實施ニ精ニ精神要ヲ養フニ對シテハ看護婦ニ對シテハ患者ノ救急處置者看護婦法ヲ教育スル

8. 衛生材料ノ状況
支隊裝備品(軍用消耗品三ツ分)及若干ノ地牙調製品ヲ携行シ上陸後約一ヶ月ニ至テは消耗品ヲ盡クシタルヲ以テ今般格納ニ努メ被用者

東京圖書ノ一上巻

106

陸軍

無事期三々元若干ノ損傷ヲ破リタリ
 前十日強成勇五騎隊衛出隊ノ材料ヲ合三々元
 後隊ノ裝備等々合三々元地方調解名ノ外
 下ラツク島平回海軍病院等ヨリ補給ヲ受ケ
 概ネ三々元分ノ材料ヲ携行セリ
 ハル歩兵隊等七騎隊携行衛生材料中ラ上
 下ニル島津等々ノ傷兵ヲ携行シテ直
 接診療ニ使ヒ得ルモノ僅少ナリ

東京 國本ノ一ト納

十月ニ入ルヤ需要増大ニモ補給ナク窮迫ノ度ヲ加ヘタリ
昭和二十一年一月二十七日ホナペ島衛生材料業務要領ヲ
制定シ更ニ愛護節用ヲ強調ス 遂次緊急材料
僅少トナルヲ以テ一月南洋興業ヨリ一部材料
讓渡ヲ受テタリ

現地物資中 特ニ利尿劑綿花等ハ大量ニテ利
用ニ補給ノ克服ニ資セリ

七月流行性腸腎髓膜炎多発ニ依リトラツ島ヨリ
一部治療品ノ空輸ヲ受テ治療ニ支障ヲ来サザ
リシ状況ナリ 八月終戦ニ伴ヒ非常用トシテ確保シテ
リテ材料ヲ使用ニ帰還ニ及ベリ

其 他 必要 事項
ホナペ島院長 疾病ニ依リ至 昭和二十一年九月八日
十月三日 別紙

ヨリ軍医一ヲ地方診療援助ノ為メ通勤セシム
又衛生材料ノ欠乏ニ伴ヒ島内ニ於テ藥物自營研究
ヲ開始シ其業務ヲ続行中 終戦ニ到ル

第七章 終戦後ノ帰還途ノ行動
第一節 終戦直後ノ行動

昭和二十一年八月十五日終戦ノ御放送及首相放送ヲ受
ケルヤ 恰カモソ聯軍参戦ニ依リ敵機ノ急襲愈々盛
ニシテ現態勢ニ於テ再戦ヲ準備スルヤ命ジテ
八月二十日零時ヲ以テ停戦ノ命令ニ八月二十五日零時ヲ以テ
作戰任務解除ノ命令ニ接セリ

六格团长ハ此ノ前後ニ亘リ数次訓示ヲ以テ軍隊ノ行動
ヲ慎重ニシ敵ヲ護ルナキヲ示スト共ニ各地区隊等ノ

東京 國本ノ一ト納

軍容検査ヲ実施シ部隊長ヲ合同ニ所信ヲ被遷シ
在御軍人ニ解散ノ訓示ヲ与ヘ教育ヲニ関スル指示ヲ
下達シ皇軍戰死者及敵軍戰死者ニ對スル墓地
ノ整理ヲナセリ

教育ニ関スル指示ノ大綱

練成方針 皇軍戰ハル場合ニ於テモ一糸不紊シル
團結ト軍紀トヲ保持シツ、皇軍國再興ノ先達タ
ルニキ精神ノ涵養及身心ノ鍛練ニ邁進シ以テ再
建足ヲ準備スルニ在リ

練成ノ要領 教育實施及自治作業ヲ以テ重要行
事トスルモ内務勤務作業悉ク之レ皇國再興ノ基
礎鍛練タルニシテ其努力ヲ重クス
練成方針 精神鍛練 身心ノ鍛磨 内務教授

(職業輔導、公民教育)

第一節 對米側交渉

昭和二十年八月末 對米交渉委員ヲ設置シ研究スル
コトアリ 九月六日米林通信員ヲ授下シ交渉委員ヲ
傳達セリ 之ニ對シ我ハ應諾準備ニんコト及米側ノ
友好的合理的處理ヲ信ジ我ヲ存慮ト認メタルコト將校
ノ佩刀ヲ認ルニト邦人ノ生活保証復元準備 自治
及治安維持ノ為メ通信ヲ認ルニト 保安隊兵器
自治用上ノ器具ヲ認ルニト 邦人ノ隔離ニ就クハ
島内自治態勢ノ保持ヲ認ルニト 自治及治安維持
ノ為メ能反自動車ノ使用ヲ認ルニト等約十項目
ニ亘ル希望事項ヲ呈出シ九月十日赤十字港内米艇
遂艦ハイン号上ニ於テ米林トマーニヤル才面指揮

陸軍

資代理ワヤント代將ト交渉調印ヲ了セリ
 当時係力問題ニ関シハ先方ノ認ムル件トスル一掃スラ
 保留シ後米側ニ交付スルノ指示ヲ受ケルニ到達セシモ其ノ他ノ事
 項ニ関シハ其ノ後ノ實行ニ於テ概ネ之ガ實現ヲ見タリ
 米側ハ同日コロギヤ地ニ海軍ト警備隊機揚ヲ上陸シ
 同兵舎並庭ニ米國々旗ヲ掲揚セリ
 第四節 米軍攻下ニ於テノ行動
 一 米側ハ九月十九日「成テ」憲章ヲ十月二日カロリニ群
 島米軍攻法令ヲ公布シ軍隊及邦人等ノ行動
 ヲ指定シ且シ犯罪及刑罰ニ関シ規定セリ
 「成テ」ハ心ト指揮官ホテ島代表ハ「成テ」
 才モ云大佐ニテ前線遊兵材才ニ對シテ軍攻ニ協
 カスヤ作業ヲ要求シ我方ハ誠意ニ之ヲ履行セリ
 又莫捷セル作業ノ種類及内容等左ノ如シ
 一 道路補修
 コロギヤ附近ノ主要道路及島内ノ周道路改修
 延人員約四百人
 二 コロギヤ町ノ復旧作業
 コロギヤ町ノ戦災及陣地ノ復旧作業
 延人員約一千五百名
 三 建築
 軍政部建物ノ建築 延人員約千五百名
 四 建築材料供出
 五 軍需品ノ返却
 六 第四節 將還準備及將還行動

原簿 陸軍ノ一ト録

昭和二十年九月三日皇軍一戰攻將兵二對之。慰靈
 祭ヲ實施シ莫靈ハ十月上旬末島七八駆逐艦ヲ以テ
 リ付要ノ警備者ヲ附シ内地ニ還送セリ
 尚、留守業務関係者、炭鑛勤務関係者、及患者ノ
 大部ハ十月中旬末島ノ駆逐艦「初枝」及「十
 月」下旬江菜丸ニ依リ内地ニ還送セリ。
 尚、米側ハ兵ニ先立テ軍ヲ還送スルノ方針ニヨリ
 逐次主力ノ乗船ニ関シ指示スル付、予カ其ノ後兵及
 軍ノ還送ノ終末期ヲ同時ナラズルコトニ就テ示セリ。
 亦志島陸軍主力部隊乗船及内地帰還ノ實
 況左ノ如シ

独立第一連隊關係部隊 十二月八日 赤十字港去表
 独立第三旅団砲兵隊 十二月八日

独立歩兵第三四五六隊 十二月十日

〃 〃 三四二大隊 十二月十日

〃 〃 三四三大隊 十二月十三日

〃 〃 三四四大隊 十二月十日

獨立連隊第三旅団司令部主力 十二月十四日

及通信隊一部

獨立連隊第三旅団司令部一部

戰車隊

工兵隊

通信隊

十二月二十三日

第百一十二旅団編成表

階級	司令部		通信隊		大隊部		中隊		機周銃		歩兵砲		戦車隊		砲隊		中隊		工兵隊		旗	
	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員
階級	司令官	副司令官	主任	副主任	主任	副主任	主任	副主任	主任	副主任	主任	副主任	主任	副主任	主任	副主任	主任	副主任	主任	副主任	主任	副主任
階級	少将	中佐	中佐	少佐	少佐	中尉	中尉	中尉	中尉	中尉	中尉	中尉	中尉	中尉	中尉	中尉	中尉	中尉	中尉	中尉	中尉	中尉
階級	大尉	大尉	大尉	大尉	大尉	大尉	大尉	大尉	大尉	大尉	大尉	大尉	大尉	大尉	大尉	大尉	大尉	大尉	大尉	大尉	大尉	大尉
階級	中尉	中尉	中尉	中尉	中尉	中尉	中尉	中尉	中尉	中尉	中尉	中尉	中尉	中尉	中尉	中尉	中尉	中尉	中尉	中尉	中尉	中尉
階級	少尉	少尉	少尉	少尉	少尉	少尉	少尉	少尉	少尉	少尉	少尉	少尉	少尉	少尉	少尉	少尉	少尉	少尉	少尉	少尉	少尉	少尉
階級	中士	中士	中士	中士	中士	中士	中士	中士	中士	中士	中士	中士	中士	中士	中士	中士	中士	中士	中士	中士	中士	中士
階級	下士官	下士官	下士官	下士官	下士官	下士官	下士官	下士官	下士官	下士官	下士官	下士官	下士官	下士官	下士官	下士官	下士官	下士官	下士官	下士官	下士官	下士官
階級	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵
合計	150	118	36	24	119	82	117	114	119	114	114	114	114	114	114	114	114	114	114	114	114	114

附表二

品名	陸軍部隊兵器員数表						
	司令部	大隊	中隊	小隊	班	隊員	合計
品	一九一	三三二	六〇	二八	二八	二八	三〇一三
短小銃		二二六				二八	二二六
拳銃		二一					二一
擲彈筒		一一二					一一二
輕機突銃	一	一〇八					一〇九
重		三三					三三
曲射歩兵砲		一三					一三
三十七糎砲		一四					一四
重機突銃							
三十七糎							
戰車							
三八野砲			六				六
歩兵砲							
高射機突銃							
自動砲		一〇					一〇
山砲							
小直徑砲							
輕							
二式							
重							
三年式							
雙眼	一四	六四	九				八六
三年式							
公		一一					一一
三年式							
砲隊		七					七
觀		八					八
率							

陸軍

東京國本ノード

航空機	無線電機	被覆線	交換機	電話機	自動車	自轉車	乗用車	水陸両用車	自動貨車	無線探照燈	無線探照燈	眼鏡	経路機	投擲機	火筒射撃機	爆発機	電気式火器	防電具	検知器	防盾	超遠渡橋	軽戦車						
												六																
										三	三	四																
						一																						
五	一	六	一	二			一	五																				
										九	三												九					
二	一					二	一	五	三	九	三		一	五		四		四	三	二	二	二	五	四	九			
七	三	六	一	二	四	一	一	二	五	八	八	六	三	五	八	一	一	一	五	二	六	四	三	四	二	五	四	八

陸軍

東京 岡本ノ丁小館

船木工且	修理具	小道具	木工常具	疊鋸	鋸	鎌
					五九	二九
					四	二二
	一	五	〇	一	三	一五
					三	
					四	
	一	五	〇	一	九	一四

陸軍

鉋	斧	石工且	十字鋏	円匙	六角無柄棧
	四		六		
六二	五三	四一	三五七	二六〇	
六			一〇	五	
二六	三九		三	一六〇	
					六
四	五			一五	
一六	六	三	一〇九	二四八	二
一〇四	一〇六	一〇三	二〇二〇	二六三七	八

陸軍

東京府本所ノ一ノ一

附表第三

彈藥負數表

昭和20年9月26日現在
駐吉浦外務省十一旅司令部

品目	部隊名	独立混成旅団	独立第七師団部隊	合計
小銃弾包		1248.482	743.587	1992.029
拳銃弾包		30.156	5.929	36.085
重擲榴彈		14.832	16.561	31.393
手榴彈		33.259	8.027	41.286
重機銃包		672.117	459.324	1131.441
四脚 式 重機銃榴彈		7.543	27.374	33.917
自動砲榴彈		11.486	1.618	13.104
三七砲榴彈		16.069	5.342	21.411
步兵砲彈莖		1.162		1.162
七五 步兵砲 榴彈			9.934	9.934
山砲			2.641	2.641
野砲彈莖		6.279		6.279
輕迫榴彈			4.832	4.832
踏車地雷		936	405	1.341
人用地雷		900	100	100
破壊筒		58		58
大発煙筒		557	223	780
小発煙筒		1.004	357	1361
水上 "		288		288
方吹黄色薬		319		319
円形 "		14709		14709
一瞬爆発薬		94		94
投擲機軸火274		46		46
真火管		750		750

昭和二十年九月二十六日現在

陸軍

大砲 器時樣真火管	400		400
真火雷管	1,060		1,060
雷管 "	38		38
真爆索	564		564
爆球灌缶	29		29
車擲照明弾	150		150
" 信号弾	1,039		1,039

陸軍部入館

1087

分割撮影ターゲット

分割した 原稿の 撮影順序	<table border="1" data-bbox="746 555 1299 943"><tr><td data-bbox="751 555 1294 748">1</td></tr><tr><td data-bbox="751 748 1294 943">2</td></tr></table>	1	2
1			
2			
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め		
図・表等名	独立混成第52旅団 将校職員表		
上記のとおり分割撮影したことを証明する。			

第五十二旅團將校職員表

昭和十九年六月十日
旅團司令部

Table with columns for unit names (e.g., 大隊本部, 戰車隊), ranks (e.g., 長, 中, 少), and names (e.g., 高橋, 佐藤, 山田). Includes a '職官氏名' column for official names.

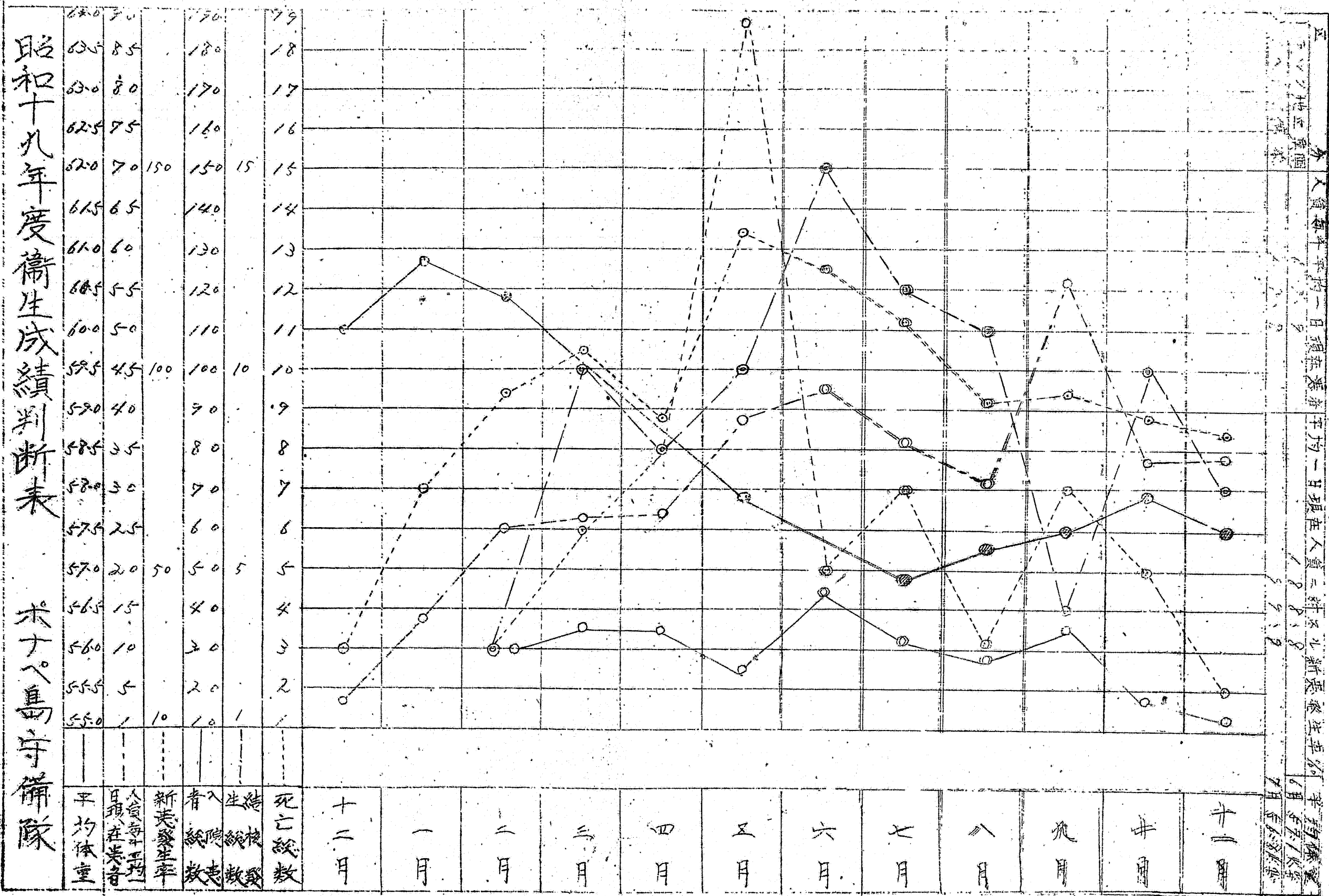
附表第1号

指揮下第百七聯隊司令部隊員表

昭和十九年三月十日
南洋第百七聯隊

第百七聯隊

職	官	氏名	期別	第百七聯隊		第百七聯隊		第百七聯隊		第百七聯隊		第百七聯隊		第百七聯隊					
				職	官	氏名	期別	職	官	氏名	期別	職	官	氏名	期別	職	官	氏名	期別
大隊長	大隊本部	伊藤 久造	5	大隊長	大隊本部	松野 久司	5	大隊長	大隊本部	松野 久司	5	大隊長	大隊本部	松野 久司	5	大隊長	大隊本部	松野 久司	5
副大隊長	大隊本部	伊藤 久造	5	副大隊長	大隊本部	松野 久司	5	副大隊長	大隊本部	松野 久司	5	副大隊長	大隊本部	松野 久司	5	副大隊長	大隊本部	松野 久司	5
中隊長	大隊本部	伊藤 久造	5	中隊長	大隊本部	松野 久司	5	中隊長	大隊本部	松野 久司	5	中隊長	大隊本部	松野 久司	5	中隊長	大隊本部	松野 久司	5
少隊長	大隊本部	伊藤 久造	5	少隊長	大隊本部	松野 久司	5	少隊長	大隊本部	松野 久司	5	少隊長	大隊本部	松野 久司	5	少隊長	大隊本部	松野 久司	5
中隊長	大隊本部	伊藤 久造	5	中隊長	大隊本部	松野 久司	5	中隊長	大隊本部	松野 久司	5	中隊長	大隊本部	松野 久司	5	中隊長	大隊本部	松野 久司	5
少隊長	大隊本部	伊藤 久造	5	少隊長	大隊本部	松野 久司	5	少隊長	大隊本部	松野 久司	5	少隊長	大隊本部	松野 久司	5	少隊長	大隊本部	松野 久司	5
中隊長	大隊本部	伊藤 久造	5	中隊長	大隊本部	松野 久司	5	中隊長	大隊本部	松野 久司	5	中隊長	大隊本部	松野 久司	5	中隊長	大隊本部	松野 久司	5
少隊長	大隊本部	伊藤 久造	5	少隊長	大隊本部	松野 久司	5	少隊長	大隊本部	松野 久司	5	少隊長	大隊本部	松野 久司	5	少隊長	大隊本部	松野 久司	5
中隊長	大隊本部	伊藤 久造	5	中隊長	大隊本部	松野 久司	5	中隊長	大隊本部	松野 久司	5	中隊長	大隊本部	松野 久司	5	中隊長	大隊本部	松野 久司	5
少隊長	大隊本部	伊藤 久造	5	少隊長	大隊本部	松野 久司	5	少隊長	大隊本部	松野 久司	5	少隊長	大隊本部	松野 久司	5	少隊長	大隊本部	松野 久司	5
中隊長	大隊本部	伊藤 久造	5	中隊長	大隊本部	松野 久司	5	中隊長	大隊本部	松野 久司	5	中隊長	大隊本部	松野 久司	5	中隊長	大隊本部	松野 久司	5
少隊長	大隊本部	伊藤 久造	5	少隊長	大隊本部	松野 久司	5	少隊長	大隊本部	松野 久司	5	少隊長	大隊本部	松野 久司	5	少隊長	大隊本部	松野 久司	5



昭和十九年度衛生成績判断表

ホナハ島守備隊

分割撮影ターゲット

分割した 原稿の 撮影順序	<table border="1" data-bbox="619 589 1174 987"><tr><td data-bbox="624 595 1169 725">1</td></tr><tr><td data-bbox="624 725 1169 855">2</td></tr><tr><td data-bbox="624 855 1169 985">3</td></tr></table>	1	2	3
1				
2				
3				
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め			
図・表等名	自昭和18年12月至昭和20年1 0月 月別新患発生表			
上記のとおり分割撮影したことを証明する。				

其他	骨折	挫伤	其他	溺水	火伤	其他	其他	其他	其他	其他	其他	其他	其他	其他	其他	其他	其他	其他	其他	其他
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13
14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19
20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21
22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22
23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23
24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24
25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25
26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26
27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27
28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28
29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29
30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30
31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31
32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32
33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33
34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34
35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35
36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36
37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37
38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38
39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39
40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
41	41	41	41	41	41	41	41	41	41	41	41	41	41	41	41	41	41	41	41	41
42	42	42	42	42	42	42	42	42	42	42	42	42	42	42	42	42	42	42	42	42
43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43
44	44	44	44	44	44	44	44	44	44	44	44	44	44	44	44	44	44	44	44	44
45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45
46	46	46	46	46	46	46	46	46	46	46	46	46	46	46	46	46	46	46	46	46
47	47	47	47	47	47	47	47	47	47	47	47	47	47	47	47	47	47	47	47	47
48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48
49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49
50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50

考 備

一 本表数字中白字者：指三战或第四战（含南洋）之加派兵员（含）
 一 本表数字中黑字者：指三战或第四战（含南洋）之加派兵员（含）
 一 本表数字中红字者：指三战或第四战（含南洋）之加派兵员（含）